

上 田 勉

6月26日、東北地方も遅い梅雨入りに入りました。アジサイの花が満開です。

私が好きな町は、昔ながらの庶民的な町です。市場（朝市）があつて、横町（路地）があれば、大体当たります。そして昔の家並みがあつたり、作家の故郷だつたりしたら、万点です。

#### 今元気な街—中核市への準備 八戸市（青森県）

東北で元気な街は、仙台を除いては余り見当たりません。そのような中で、八戸市が今元気です。八戸市は、青森県では、人口で青森市に次いで2番目です。（3番目は城下町・弘前市）。現在、中核市（人口20万人以上）への手続きに入っています。八戸市の中心街は、JR八戸線の本八戸駅から徒歩10分ぐらいです。町名は、三日町や六日町等の数字の町名が多いです。

#### 「朝市文化」と「横丁文化」

八戸市の朝は、午前3時から朝市が始まります。平日毎朝行われている「陸奥湊朝市」は200～300店が出店します。「イサバのカッチャ（市場のお母さん）」たちの威勢の良い声が飛び交い、早朝から活気づきます。”朝市で朝飯”、自分で選んだ魚を焼いてもらい、炊き立てのご飯とアツアツのみそ汁、もう応えられません。もちろん刺身もあり。

毎週日曜日に行われる（冬場は除く）館鼻岸壁朝市は、350店が出店します。通常で1万人、多い日には3万人の客が訪れる、日本有数の朝市です。取れたての魚や野菜から、天ぷらやウニ飯、コロケ、唐揚げ、焼きそば、おにぎり等の惣菜、自家製のパンや和菓子の店が並びます。値段は大体100～200円ぐらいです。買い食いをしていると、〇十年前の童心に帰ります。

八戸市の夜は、のん兵衛横丁から始まります。中心街には、みろく横丁を始めとして、いくつもの横丁があります。昭和20年代から続いている横丁もあります。八戸産のイカやサバ、せんべい汁を肴にして、夜更けまで話しがはずみずみ。横丁が多いせいか、中心街にチェーン店の飲み屋はほとんど見当たりません。

朝は朝市、夜はのん兵衛横丁で、八戸の人の睡眠時間はどうなっているのか。私は思い当りました。八戸の朝市や台湾の夜市、これらの市が消費と流通の原点なのではないでしょうか。市場では、八色センターが有名です。

#### 八戸は 三浦哲郎の故郷

作家 三浦哲郎は、八戸市に生まれました。八戸高等学校を卒業して、早稲田大学へ進学します。1961年「忍ぶ川」で芥川賞を受賞。映画「忍ぶ川」（熊井 啓監督、栗原小巻・加藤 剛主演）も八戸市でロケが行われました。「繭子ひとり」は、1965年にNHKの連続テレビ小説（山口果林主演）になりました。私は、人妻の生き方を描いた「夜の哀しみ」が心に残っています。

読者の皆さん、“八戸へおんでやあんせ” ついでに気仙沼にも！

【毎日曜日に1万人が訪れる 館鼻岸壁朝市 (JR 陸奥湊駅から徒歩15分)】



【のん兵衛には応えられない みろく横丁 (八戸中心街)】

